

第6次大村市総合計画 (目次～大村市のいま)

目 次

はじめに.....	1
大村市民のミライに対する想い.....	2
2050年のありたいまちの姿.....	4
私をかなえるまち おおむら.....	6
健やかに暮らせるまち おおむら.....	8
安全・安心を得られるまち おおむら.....	9
にぎわいを感じられるまち おおむら.....	10
心地よくすごせるまち おおむら.....	11
みんなでつくるまち おおむら.....	12
ミライのまちの姿を描く市民参画の風景.....	14
 第6次大村市総合計画.....	16
 総合計画の構成.....	17
 大村市のいま.....	19
大村市のこれまでについて.....	20
大村のしあわせの現状.....	21
大村市の都市構造.....	26

はじめに

どのような大村市なら住み続けたいと思えるのか、みんなが笑顔で過ごせるのか。

高校生からお年寄りまでの様々な年代の市民が語り合い、
「こうあったらいいな」「こんなまちならワクワクするな」
という想いを重ねて将来像を描きました。

本章では、その市民の声をもとにまとめた「2050 年のありたいまちの姿」を紹介します。

「ミライ」ということばについて

理想のまちのあり方について言及する際は、「ミライ」という表現を使用しています。漢字でもひらがなでもなく、本市独自の造語としてカタカナ表記で「ミライ」とすることで、単なる時間的な意味の“未来”にとどまらず、本市にかかる全ての人にとって、こうありたいな、こうなったらしいなという“ありたいまちの姿”を描いていきたいという思いを込めました。

大村市民のミライに対する想い

2050年も、大村市に関わる全ての人が しあわせを実感できるまちであるために

未来のまちの姿は、誰かが一方的に描くものではなく、そこに暮らし、働き、関わる人々の想いが重なり合ってかたちづくられていくものです。大村市では、市民会議やアンケート調査など、さまざまな対話と参加の機会を通じて、市民の皆さん自身が主体となって「2050年のありたいまちの姿」を描いてきました。

そこに込められているのは、自然や人のぬくもりを大切にしながら、誰もが希望をもって暮らし続けられるまちへの願いです。ありたいまちの姿を目指して、行政だけでなく、地域や民間企業、そして市民一人ひとりが力を合わせ、しあわせが広がり、次の世代へつながっていく、そんな「ミライ」へ向けた歩みを、これまで以上に推進していきます。

いま

人口は増加しているが、
将来を見据えて様々な取組を実施。

第6次大村市総合計画

(2026年～2035年)

2050年のありたいまちの姿を目指し、行政
が行う今後10年間の行動指針です。

大村市は、今後も引き続き、大村市で暮らす人、大村市に訪れる人、大村市を応援する人全てがしあわせになれるようなまちづくりを進めます。

総合計画は、そのための設計図であり、手段です。未来に向けた想いを、計画を読む全ての人と共有しながら、今と変わらない人口規模、今以上にぎわい、誰もが幸せを実感できる大村市をめざし、市民とともに歩んでいきます。

これまで

第1次～第5次総合計画に基づき、計画的にまちづくりを推進。

第6次総合計画の推進
2035

市民と力
人口減少
まちの活

ありたい

大村市では、2030年
とが予測されています。
は人口構造の変化に
を進めます。

多様な人材が活躍で
域のつながりを大切
点で誰もが安心して
目指します。

2050年のありたいまちの姿

2050年、大村市では生産年齢人口が減少し、介護を必要とする高齢者が急増する一方、今のこどもたちは社会の担い手として活躍する世代になります。ミライの課題と可能性が交差するその時期に向けて、今から準備を始めることが重要です。こうした見通しを踏まえ、多くの市民とともに、2050年のありたいまちの姿を描きました。



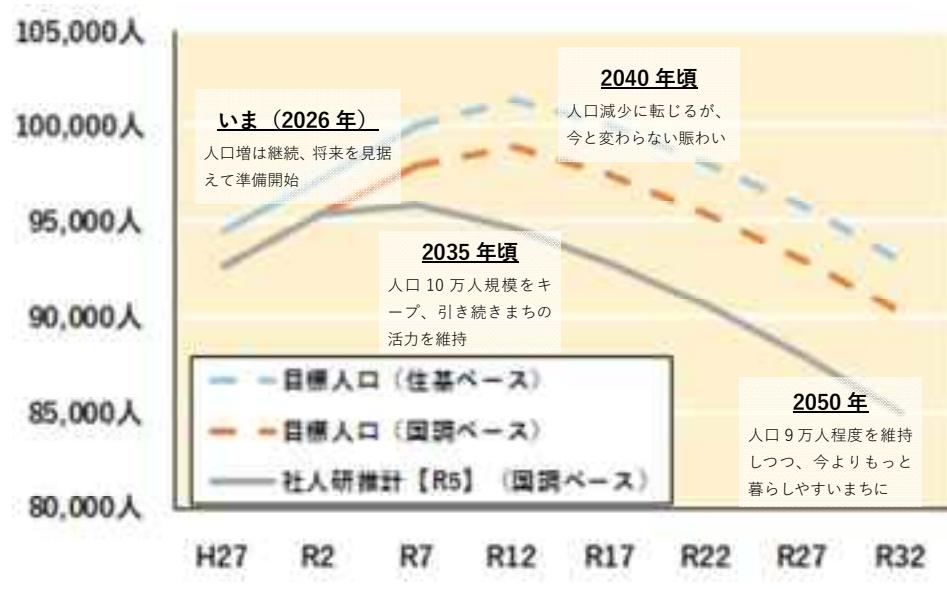
5年頃

を合わせて
に対応し、
力を維持

ミライに向けて

年頃を境に人口が減少に転じることになります。この変化を契機ととらえ、市は対応した持続可能なまちづくり

きる環境整備や子育て支援、地にした施策を通じて、2050年時暮らし続けられるまちの実現を



2050年のありたいまちの姿

しあわせの輪が広がるまち

私をかなえるまち

こどもも大人も、夢に向かって歩き出せる。
自分らしく育つまち。

健やかに暮らせるまち

ここもからだも、ずっと軽やかに。
変わっていく毎日でも、みんなで健やかに生きるまち。

安全・安心を得られるまち

困ったときに支え合える。
みんなが安全で安心して生きられるまち。

おおむら 2050

心地よくすごせるまち

自然に囲まれながら、便利に暮らせる。
様々な暮らし方も選べるまち。

にぎわいを感じられるまち

働く人も訪れる人も、笑顔になれる。
人がいきかい活気がめぐるまち。

みんなでつくるまち

小さな声も、誰かの想いも。
みんなで形にしていくあたたかなまち。

私をかなえるまち おおむら

こどもも大人も、夢に向かって歩き出せる。
自分らしく育つまち。

2050年の大村市は、多様な生き方を誰もが自由に選べるまち。
住まいも、仕事も、学びも、人生のかたちも、自分の意思で描けます。
地域で子育てを支え合い、こどもが安心して育つ環境と、
こどもから大人まで学び続けられる仕組みも整っています。
誰もが夢や可能性を追いかけられる、「私をかなえるまち」がここにあります。



2050年の大村市の風景



子育ても自分の時間も大切にできる社会。

地域も気軽に子育てに関わり、こどもは仲間や地域とつながりながら、のびのびと育っています。



自分らしく学べる環境。

誰もが多様な選択肢から最適な学びを通じて、未来を切り拓く力を育むことができます。育ったまちとつながり続け、人生を豊かにしていきます。



チャレンジする気持ちに寄り添うまち。

誰もがやりたいことに挑み、自分らしい道を切り拓くことができます。

若者が自然と集まり、ともに未来をつくっていきます。



世界とつながる仕事のかたち。

大村を拠点にしながら、多様な国や地域と関わることができます。

新しい時代の働き方が、ここから広がっていきます。

健やかに暮らせるまち おおむら

2050年の大村市は、全ての人が心地よく、安心して暮らせるまちです。高齢者や障がい者でも自由に過ごせる環境があります。医療・福祉サービスは必要な人に必要な時に届き、スポーツや公園、食の充実を通じて、健康的な暮らしが当たり前になります。人と地域が支え合い、元気に長生きできる、「健やかに暮らせるまち」を実現しています。



安心できる医療のかたち。

どこにいても診療を受けられ、薬はドローンで届く。
出産や緊急時には対面でしっかりとつながり、誰もが安心して医療を受けられる環境が、大村では広がっています。



好きが見つかる、自由が広がるまち。

公園や文化施設、自然とふれあえる場所がそろい、誰もが自由に楽しみ、表現できる。
年齢や障がいの有無にかかわらず、自分らしく心地よく暮らせる毎日が広がっています。

自分らしく暮らせる毎日。

先進技術と支援が、どこにいても生き生きとした暮らしを支える。
人生の最期も、自分らしく選び、穏やかに生ききることができるまちになっています。



食とのつながりが、元気としあわせにつながる。

地元の野菜や魚、肉、果物などを味わうことができ、バランスよく食べて健康に。
「食べることを楽しむ」暮らしが、心と体にしあわせを届けています。

安全・安心を得られるまち おおむら

2050年の大村市は、災害や事故が起きた時にもすぐ対応できる体制が整い、市民が安心して暮らせるまちです。消防・救急の体制が充実し、自然災害や交通事故などのリスクにも強く備えています。人と人とのつながりを大切にし、日頃から支え合う関係が築かれており、誰ひとり取り残されることなく、安心して暮らせる「安全・安心を得られるまち」を実現しています。



備えがまちの「強さ」になる。

日頃の防災訓練や関係機関との連携が力となり、災害時にも迷わず行動できる。
整備されたインフラと支援体制が、早期復旧と命を守る力につながっています。



事故や事件のない安心社会の実現。

AI や防犯カメラなど、最新の技術と地域の見守りが連携し、事故や事件を未然に防ぐ。
全ての人が、地域の暮らしを安心して楽しめるまちが広がっています。

助け合いが根づく地域の力。

地域で防災に備え、世代をこえて手を取り合う文化が育っている。
顔の見えるつながりが、誰も取り残さないまちを実現しています。



日常の「声かけ」が、まちを守る力に。

困ったときに頼れる人がいる。日頃の気づかいや見守りが、犯罪や孤立を防いでいる。
一人ひとりが守られる安心のまちが、日常の中に実現しています。

にぎわいを感じられるまち おおむら

2050年の大村市は、商工業や農林水産業が発展し、新たなビジネスも次々に生まれる、活力ある地域産業が広がるまちです。人・モノ・お金・産業などの資源が地域内で循環し、観光などで得た収益も市内で流通する仕組みが整っています。市民と訪れる人々が共ににぎわいを楽しみ、多様な好循環が生まれる「にぎわいを感じられるまち」を実現しています。



日常ににぎわいが宿るまち。

伝統や自然、文化、地域の活動がまち全体で息づき、多くの人を惹きつけています。
住む人にとっても誇りとなる風景が、にぎわいとして日々を彩っています。



受け継がれる技、新たに生まれる力。

先端技術が産業を進化させる一方で、伝統の技も大切に受け継がれている。
新しさと懐かしさが調和し、未来へと続く大村らしい産業が育まれています。

応援の力でつながるまち。

まちの魅力が広がり、離れて暮らす人々も「大村らしさ」を応援し続けている。
関係人口のつながりが、新たなにぎわいや活力をまちにもたらしています。



変化を力に変えるまち。

多様な産業に先端技術が活かされ、企業は新しい価値に挑み続けている。
挑戦を恐れない風土が、未来を切り拓く原動力になっています。

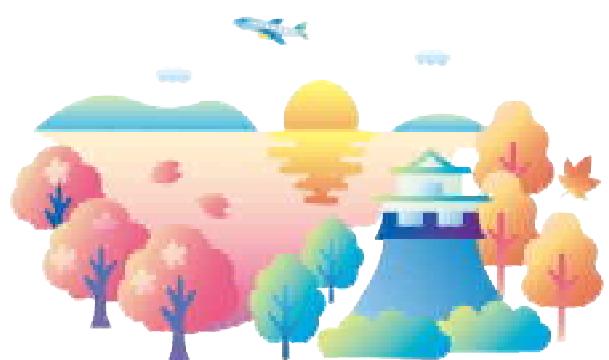
心地よくすごせるまち おおむら

2050年の大村市は、都市の機能性と自然の豊かさが調和し、住む人・訪れる人・関わる人全てが心地よく過ごせるまちです。移動しやすい道路や集約された都市機能により、暮らしの利便性と快適性が高まり、人と人とのつながりも広がっています。環境にも配慮された空間が整い、憩いの場としても親しまれる「心地よくすごせるまち」を実現しています。



自由に、わたしのペースで移動できるまち。

必要な場所に必要な交通手段があり、誰もが無理なく移動できる都市環境が整っている。先端技術と都市整備が融合し、暮らしやすく回遊性の高いまちが広がっています。



四季がやさしく包みこむまち。

多良岳の緑や大村湾の輝き、春の桜から冬の凧まで、自然の恵みに心が安らぐ。自然とともにある暮らしと、日々のやすらぎを育んでいます。

地域内に、暮らしの全てがあるまち。

医療や買い物、憩いの場が身近にそろい、年齢を問わず無理のない日常がかなえられる。自分のペースで、心地よく暮らせるまちが実現しています。



未来を見すえた、やさしいまち。

エネルギーの地産地消や資源循環など、環境にも人にもやさしいしくみが根づいている。持続可能なまちづくりが、確かになかたちになっています。

みんなでつくるまち おおむら

世代も文化もこえて、
つながりから未来を生み出すまち。

2050年の大村市は、高齢化や人口減少が進んでも、
人と人とのつながりがあたたかく息づくまち。多世代が交流し、
多文化を受け入れることで、新しい価値や選択肢が日々広がっています。
市民がまちづくりの主役となり、地域の力で支え合いながら、
安心して暮らせる「みんなでつくるまち」を実現しています。



さりげない助け合いが息づくまち。

小さな気配りや声かけが当たり前となり、地域
全体で暮らしを支え合っている。
支え合いの力で地域が自立し、誰もが安心して
過ごせるまちが実現しています。

想いを語り、まちを動かすから。
「こうしたい」「こうありたい」と語り合い、
共感から行動が生まれている。
市民一人ひとりが主役となり、まちを自分たちでつくる未来が広がっています。





つながるまちを目指して。

一人ひとりの「こうなったらいいな」という想いが出発点。
世代や立場をこえて語り合い、支え合い、関わる全ての人と未来を描いていく。
想いがつながり、行動がつながり、人とまちがつながっていく——。
私たちは今、「つながるまち」を目指して歩み出しています。





ライのまちの姿を描く市民参画の風景

大村市のミライを考える市民会議



第1回市民会議

ミライについて考える
キックオフミーティング



第2回市民会議

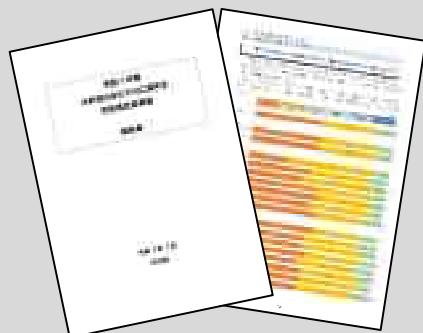
ワークショップ①
「私」の Well-being の検討



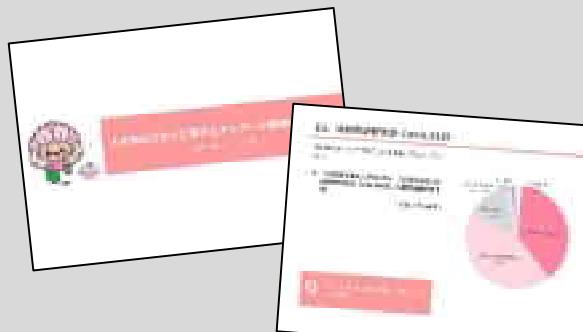
第3回市民会議

ワークショップ②
未来に残したいまちの魅力

多くの市民・団体・学生の声の集約



市民アンケート



小中学生アンケート



団体アンケート



職員アンケート



第4回市民会議

ワークショップ③

新たに生み出したい魅力

第5回市民会議

ワークショップ④

市長への提案のまとめ

第6回市民会議

市長への提案

市長への提案書

